

菌の腎臓通過によるものとは認め難く、一部分は尿中に於て自ら増殖するものと見做す事が妥當なり。

32卷 4號

Brown Pearce 系癌腫の酵素學的 研究 (I)

Brown Pearce 系癌腫家兔の腫瘍並に
肝、腎、筋、睾丸及血清の「アミラーゼ」
に就て

森 義一

片側睾丸に移植して得たる Brown Pearce 系癌腫家兔を其臨床的症狀、並に病理解剖學的見地より癌腫症初期群、中期群、末期群の三期に分ち、各睾丸、原發腫瘍及び肝、腎、淋巴腺轉移腫瘍の「アミラーゼ」量の腫瘍組織の老成變遷(新鮮、過熟、壞死)に伴ふ消長を檢査し併せて肝、腎、筋、睾丸並に血清の「アミラーゼ」量を測定して之が消長と全生體の癌腫症性變遷經過との關係を觀察したり。

經皮免疫に関する實驗的研究 (其二)

第四編 白痢菌並に「チフス」菌及「パラチフス」菌 (A型及B型) 混合「ワクチン」を以てせる經皮免疫(豫報)

1. 白痢菌凝集素は健常人血中に認められざるも白痢菌「ワクチン」塗布を施す事によりそれが認められたり。

2. 白痢菌、「チフス」菌、「パラチフス」菌(A型及B型)混合「ワクチン」を用ひての經皮免疫により發現せし抗體の減退後に至り再塗布即ち重複經皮免疫を施せば再び抗體、(凝集素)の發生上昇を見る。

3. 此混合「ワクチン」を用ひて經皮免疫を行ひたる後に皮下注射により重複免疫を施せば接種回数を減ずるも制式豫防接種に於けると略同程度の免疫効果を收め得、然も經皮免疫の前行によりて反應症狀を輕減する事あるべし。

再歸熱再發株の研究 (X)

第三編 生體感染による觀察

Ⅱ 不完全「サルヅルサン」注射が再歸熱の病型に及ぼす影響に就て

山下 朝橘

不完全「サルヅルサン」注射を行へば各株接種「ラツテ」の病型に影響を及ぼすものなり、即ち潜伏期に於て注射すれば自然經過「ラツテ」に比して等しく潜伏期の延引を認め得。又原株接種「ラツテ」の發病當初に不完全「サルヅルサン」注射を施す時はその自然治癒迄に要する日数は自然經過「ラツテ」の場合より比較的短縮せらる。又再發株發病當初に該注射を施す時は各發作間の日数は比較的長く、從つて自然治癒に要する日数は自然經過「ラツテ」の場合よりも比較的長期に亘る。

海濱再歸熱の實驗的研究 (I)

再歸熱「スピロヘータ」接種家兎及び海濱に於ける「アグロメラチオン」

小林 樵夫

奉天系再歸熱「スピロヘータ」原株菌を以て「アグロメラチオン」に由る海濱再歸熱の免疫學的研究を企圖し著者の實施手技方法並に制定法に準據して耐過家兎、海濱に就て自働免疫の發現と最高効價とを觀察したり。

肺炎双球菌による皮膚反應に就て(II)

免疫血清の皮膚反應に及ぼす影響

越智 昇一

肺炎双球菌一型菌の免疫家兎血清は生菌の正常家兎皮内注射により發現する皮膚局所症狀を減弱し又は抑制す。又免疫家兎血清の皮膚局所症狀抑制度は正常家兎に於ける場合よりも弱く現はる。

又本菌一型菌加熱「ワクチン」に免疫家兎血清を混じて正常家兎内に注射した場合に於ける皮膚症狀は「ワクチン」を單獨注射する場合に於けるよりも稍々強度なり。殊に上記「ワクチン」と血清を混じて免疫家兎皮内に注射せる場合に最も著しく皮膚反應が惹起さる。

32卷 5號

經膀胱免疫に関する實驗的研究 (I)

異種蛋白の膀胱内反覆注入に於ける沈降素の消長に就て

重樞 親行